

令和元年度第1回JCHO湯河原病院地域連絡協議会 議事録

委員会名	令和元年度第1回JCHO湯河原病院地域連絡協議会
開催日時	令和元年11月20日(水) 19:00から20:00
場 所	湯河原町防災コミュニティセンター 206会議室
出席者 (敬称略)	<p>(委員)</p> <p>湯河原町消防署 署長 高吉裕二          湯河原町保健センター 所長 松野善一          湯河原町介護課 課長 大野真伸          小田原医師会 湯河原班 班長 岩崎洋          患者代表 秋山孝子          湯河原病院 院長 高取吉雄          湯河原病院 内科部長 岩田哲史          湯河原病院 看護部長 小池由紀恵          湯河原病院 副看護部長 上野広美          湯河原病院 事務長 山北真一郎          湯河原病院 社会福祉士 佐藤敦子</p> <p>(オブザーバー)</p> <p>湯河原中央温泉病院 事務長 青木英和</p>
(議事要旨)	<p>○：委員からの意見等          ●：病院側からの説明等</p> <p>1. 開会</p> <p>● 新任委員及びオブザーバーの紹介</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 新病院について          (2) 地域医療構想における具体的対応方針について          (3) JCHOの中期目標について          (4) その他</p> <p>● 当院は神奈川県<small>の</small>県西構想区域の南部に位置しており、南部には、小田原市、それから近接する足柄下郡の箱根町、真鶴町、湯河原町があります。まずは、湯河原町と真鶴町の医療状況について、説明したいと思ひます。小田原市で行われたデータによりますと、真鶴町の人口は約7千人で高齢化率は41.8%となっています。湯河原町の人口は約2万5千人で今年初めて高齢化率が40%を超えたときいております。</p>

高齢化率についての目安でございますが、全国の高齢化率は、27.7%で30%を超えるのは2024年でございますので、当地区は早く高齢化率が上がったと言えます。また、湯河原町には、当院を含め3病院ありますが、真鶴町にはございません。次に周辺の医療体制でございますが、中核的な役割を期待されている病院は、小田原市にあるということで、例えば小田原市立病院や小澤病院さんが中核病院としての機能を担当していただいております。湯河原町内には3病院あり、湯河原胃腸病院さんは、急性期と慢性期をお持ちであって血液透析もやっておられます。湯河原中央温泉病院さんは、慢性期をお持ちであって、今年4月から介護医療院を開設されております。当院は、急性期と回復期をやっており、急性期病棟の中に地域包括病床を設置しているとともに、訪問サービスを実施していることから、当院は小田原市立病院等の中核病院を補完する役割を持つ病院となります。当院の地域包括ケア病床ですが、例えば小田原市立病院や循環器病院で急性期の治療を行った後、当院のリハビリテーションが必要という時に受け入れる病床であり、この病床を通じて在宅復帰していきます。この様な連携につきましても、地域連携室を通じて支援を行っています。それから、緊急時の受け入れについては、診療科の関係で受け入れ困難な場合もございますが、可能な限り受け入れたいと考えています。この地域包括ケア病床の特徴は、最大で60日まで入院、リハビリテーションを受けることが出来、従来の急性期病床では受けることが出来ないことから、非常に使い勝手の良い病床です。また、回復期病床との違いは、同じくリハビリテーションにも注力しますが、回復期病床は、病名が限られており、地域包括ケア病床は、病名が限られていませんので、例えば在宅療養の患者様のご家族をご支援するための、レスパイトで入院することが可能でございます。次に訪問サービスでございますが、当院の訪問看護はみなしであることから、当院で入院した患者様を対象に実施しているところでございます。一方で訪問リハビリテーションについては、院外の先生から、診療情報提供書・ご指示をいただければ、職員を派遣することが出来ます。その他の訪問サービスの実績としては、今のところ少ない実績ですが、訪問栄養指導や短時間型通所リハビリテーションを実施しています。

● 次に新病院について、ご説明します。現在は全体の工程の約4割が出来ているところでございますが、来年4月末に引き渡しが予定されており、備品の搬入や引越し等の準備を行った後の7月1日から新病院で診療を行いたいと考えています。新病院の建物ですが1階には、玄

関から医事や外来の受付、検査・健診部門があって、また、南側の入口からは、救急や厨房、患者様向けの売店を準備しています。2階には、1階の外来と連動する形でリハビリ部門があり、同じ階に回復期リハビリテーション病棟が50床ございます。また、1階の救急と連動する形で手術室、中央材料室、管理室がございます。3階には急性期の2つの病棟がございますが、その中に先ほど申し上げました地域包括ケア病床が24床ございます。現病院は、許可病床199床に対し稼働病床が148床でございますが、新病院では許可病床と稼働病床は150床とする予定です。

● 次に地域医療構想でございますが、今、話題になっているのは、公立・公的病院の話ですが、公立病院は県立や市立病院、公的病院は日赤や済生会等のことで、JCHOは公的病院の中にあります。厚生労働省はこれら1,455病院の診療実績を分析した結果、424病院に再編要請を行ったと聞いています。神奈川県内では10病院、JCHO病院は全国で18病院くらい再編要請がありました。現在のところ当院への再編要請はありませんが、今後、厚生労働省から追加の要請もあり得ると考えております。地域医療構想における当院の対応方針としましては、休床している49床を返還すること、また、JCHOの中期目標であります補完病院として在宅復帰の支援を行うということです。また、当院は回復期病棟や地域包括ケア病床を持っていますし、併せて訪問サービスを行っていくということでございます。

● 次に話題提供ということで、今回は2つ取り上げたいと思います。一つ目はアクセスの悪い地域の話です。これまで当院はアクセスの悪い地域にあったことから、考えていみせんでしたが、現病院の宮上地区は、湯河原町役場がアクセスの悪い地域としている場所が2ヶ所ありまして、温泉場とオレンジラインの所になります。今年の4月から湯河原町役場は温泉場、オレンジライン、鍛冶屋、福浦の4ヶ所にオンデマンドのタクシーサービスを始まりました。また、今年の10月から真鶴・鍛冶屋方面から新病院への路線バスの本数が半分くらいになりました。当院の職員に確認したところ、城堀地域、東海道線側の吉浜地域、川堀地域からの患者様は多いがアクセスは良くないと聞いています。当院の対応だけでは難しい話ですが、これらのアクセスの悪い地域にも何らかのサービスを検討しなければいけないと考えています。二つ目は非常時の対応についての話です。今年、台風が2つ来りました。台風19号の時は、近隣住民から当院に避難したいという連絡があり、湯河原町役場に確認したところ、今回指定した避難所へ案内するよう話が

ありました。また、別の電話では、避難入院できますかという問い合わせがありました。来院後に対応する予定でありましたが、結局、来院しませんでした。今後、このような事が増えていくと、どう対応するか考えなくてはならないと思いました。しかし考えてみると、要介護の方が湯河原町に1,208人いて、その内4と5の方は274人います。真鶴町には374人いて、その内4と5の方は111人いますが、これを合わせると湯河原町にあります病床数を超えることとなります。今年の台風では福祉避難所に多数の住民が避難されたと聞いており、そこで福祉避難所と病院とでどう分担していくのか、例えば千葉県のような大規模停電もありましたので、患者様の関心事は自家発電装置にあります。現病院での自家発電装置は3日間ありますし、新病院でも同様な設備を準備する予定です。それと非常食でございますが、当院では入院患者3日分と職員分は確保しています。新病院では敷地・建物が狭くなりますが最低限は確保していると考えております。あとは透析や酸素でございますが、透析対応ができるのは湯河原胃腸病院さんだけだと思います。また、酸素については先日、業者さんに確認したところ、酸素濃縮装置を使用している家は把握しており、その地域が停電になる場合は、厚生労働省と連携をして事前に酸素ボンベを届けるそうです。前回の台風では、関西地域から酸素ボンベをかき集めたそうです。道路・電車が止まっている場合に、果たしてこの地域に持ってきていただけるか心配なところです。以上が話題提供でございます。

○ 先ほど、台風があった時に病院に避難させて欲しいという方がいらっしゃったということですが、このコミュニティセンターもそうですが、町内には避難所が11ヶ所あります。その方は病院にかかっていた方なのでしょうか、それとも一般の方でしょうか。

● その方は近隣住民だと思われます。それ以外では、数日後に入院が決まっている方の息子さんから電話があり、避難も含め入院させて欲しいという問い合わせはありました。あとは、避難受け入れ病院であると認識されている方からの問い合わせはありました。

○ 怪我をされてない方でしょうか。

● 怪我はされていません。以前からも台風等の被害はありましたが、今回の台風は規模が大きく問い合わせは多かったです。そういうこともあり避難入院という形態が院内で提起されたところです。

○ 地域の避難所よりかは病院の方が安心するのではないかと思います。町としては指定の避難所を広報しているので、病院あて住民から問い合わせがあったことは初めて知りました。台風19号では箱根山

に千ミリくらいの雨が降って湯河原町の2つの河川周辺の方々がかかなり避難されたと聞いています。

○ 二つ目のアクセスの悪い地域については、高齢者の課題として認識しています。通院の度にタクシーの使用するのは、現実的には難しく、JCHOさんが巡回バスを出していただくと助かります。湯河原町でもゆたぼん号のオンデマンドサービスを行っていますが、事前予約が必要等の不便な部分もあります。住民の足を確保するというので、巡回バスについては、是非継続をお願いしたいと考えています。

○ 要介護者の避難場所について、現在、町内の特養、老健、認知症・高齢者グループホーム、介護付有料老人ホームの約10ヶ所と協定を結んでいますので、これらが一時的な避難場所になります。ただし、医療ニーズの高い避難者については、町内の3病院にお願いすることになりますので、ご協力をお願いします。

○ 今回の災害時、湯河原町の職員は直ぐに集まりましたか。

○ 集まりました。台風19号の時は、金曜日の午後3時から避難所を開設し、避難者が全員帰宅したのは、日曜日の午前8時くらいでした。今回の災害は、全職員が対応することになっている3号対応でした。

○ 被害の状況や連絡は役場に入りますか。

○ 私は午後8時くらいに2件の連絡を受けて、職員が付き添い避難所に連れて行った事例、福祉施設でショートステイを希望する事例がありました。

○ 湯河原町は温泉場で旅館の部屋が空いているのではないかと考えることがあります。福祉施設に避難する話がありましたが、施設の夜勤体制を考慮すると現実的には厳しいのではないのでしょうか。

○ おっしゃるとおり事前に受け入れ可能人数を把握していますが、通常時でも夜勤体制は厳しく、災害時に要介護者を受け入れるのは再検証が必要だと思っています。それと旅館組合と協定を結んでいますが、それは、旅行の滞在者を対象としており、医療面を考慮すると旅館による要介護者の受け入れは難しいと思っています。

○ 先ほど、病院から訪問サービスの話がありましたが、通所リハは移転後も継続するという事でよろしいでしょうか。

● 継続することになっています。

○ リハビリについては、タイのブンイトー市と湯河原町で協定を結んでおり、その中で職員の交流を検討しています。また、同市のスタッフは引き続き来日し技術を習得する予定です。

● タイにケアセンターを建設するという事で、中身についてタイ

3. 閉会	<p>のスタッフに確認したところ、建てた後で検討するということでした。</p> <p>○ 新病院ですが、病床数が150床で急性期が50床、その中で地域包括ケア病床が24床ということですが、これまでは、整形外科が主体でしたが、移転後は診療体制を変えるということでしょうか。</p> <p>● 当初、新病院の構想時に湯河原町との協議の中で、診療科を増やして欲しいという要望がありましたが、それが難しいので、現在の診療を維持するということになりました。内容としては、整形、リウマチ、リハビリテーションというところは変わりません。また、脳神経外科での物忘れ外来も継続していきたいと考えています。</p> <p>○ 昔から整形外科というイメージがあったので気になっていました。新病院もお勧めできる病院になって欲しいです。また、物忘れ外来等、良い診療をされているので、今後も継続して欲しいと思います。</p> <p>● 本日は、貴重なお時間をいただき有難うございました。限られたお時間の中で頂戴しましたご意見等を今後参考にさせていただき、地域の皆様と協力して地域医療の実情に応じた運営を目指したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。</p>
-------	---